



リハビリのスタッフの意見も取り入れ 車いすでの動きに配慮したトイレの改修。



エントランスロビーのトイレを改修して生まれた多機能トイレ-1。跳ね上げ手すり、L型手すりのほか、ベビーチェアやおむつ交換台なども設けられている。なお、多機能トイレ-1は右勝手、多機能トイレ-2は左勝手とし、誰でも使いやすいように配慮している。

千葉市を中心とする地域医療の一翼を担い、超急性期治療から回復期リハビリテーションに至るまでの医療に「信頼と奉仕」の理念で貢献している千葉中央メディカルセンター。病棟のトイレ改修に続き、2015年に、1Fにある2か所の外来トイレの改修を行いました。空間を上手に活用しながら誰にでも使いやすいトイレ空間へと生まれ変わっています。

ブースの数を減らして、広さを確保した多機能トイレに変更するなどの改修を実施。

ゴールデンウィークや9月の連休を効率的に利用し、患者さんの不便にならないように工事を計画。エントランスロビーのトイレは、5つのトイレブースと2つの小便器があった空間を、広さを確保した2つの多機能トイレへと改修。車いすでもゆったり利用できる空間に変わりました。改修においては、リハビリのスタッフの意見も取り入れ、車いす同士がすれ違う時の動線などにも、きめ細かく配慮されています。



レストラン前の女性用トイレの手洗器。空間を広く明るく見せる大型鏡を採用した。



1982年の開設以来、地域の医療を支えている。

千葉中央メディカルセンター トイレ改修工事

- 改修年月 / 2015年5-6月、9-10月
- 所在地 / 千葉県千葉市若葉区加曽利町1835-1
- 施主 / 医療法人社団 誠馨会
千葉中央メディカルセンター
- 設計・施工 / TOTOエンジニアリング株式会社
- 病床数 / 272床

院長先生からの声

トイレは「病院の顔」だから、刷新が急務でした。



千葉中央メディカルセンター
院長
福田和正さん

改修したトイレの所は、築30年以上経ちます。玄関前やレストラン前にあるトイレは「病院の顔」でもありますから、古いイメージを早く刷新したいと考えていました。エントランスロビーとレストラン前のトイレが近くにあるので、一方を広い多機能トイレにして、トータルのブースの数を減らしても大丈夫だと判断。レストラン前のトイレは、扉を開けた時に見えないように小便器の位置などにも配慮しました。レストラン前を先に改修しましたから、工事期間中にトイレの数が足りなくなるという問題もなく、患者さんにご不便をかけずに改修できたのは、よかったですね。

サインも高齢者に分かりやすいものに変更。 便器は清掃しやすい壁掛けタイプを採用。

扉の色なども見直し、廊下から見た時にも明るく感じられるデザインになりました。トイレのサインも、より高齢者にも分かりやすい大きなものに変更しています。多機能トイレの出入口ドアは、音声によるガイド付き。車いすでの利用者が、トイレが使用中であるかどうかを廊下側から分かるように、ランプの位置や高さも工夫されています。いずれのトイレも便器には、清掃のしやすい壁掛けタイプを採用し、メンテナンスにも配慮しています。

エントランスロビー 男女トイレを多機能トイレへ改修

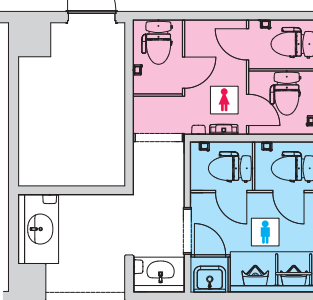
「エントランス付近に、車いすで使えるトイレがほしい」というご意見箱での要望も、多機能トイレへの改修で実現できました。



Before 男女トイレ出入口



After 多機能トイレ出入口



Before 男女トイレ 平面図



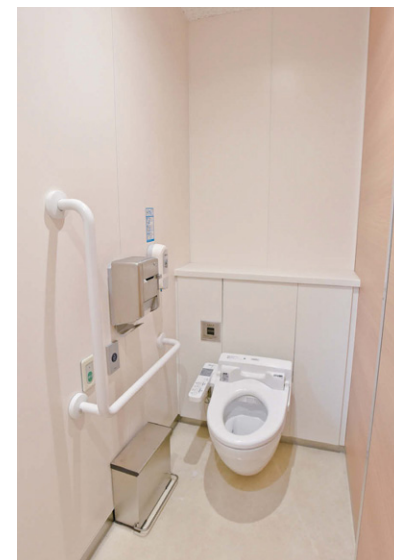
After 多機能トイレ 平面図



ランプで使用中かどうかを明示
エントランスロビーのトイレのサイン。

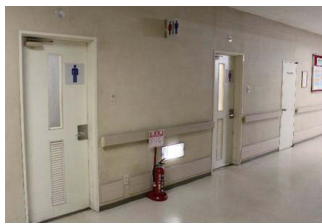


男性用トイレ。ブースの開き戸を引戸にするなど、安全性に配慮している。



女性用トイレにはブースを3つ設けているが、1つはベビーカーも入れる広いブースを確保した。

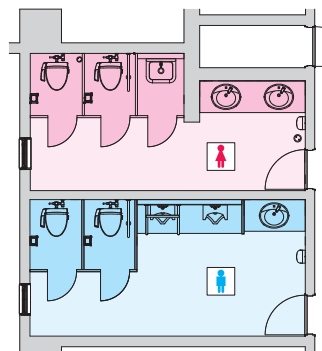
レストラン前 男性用トイレ・女性用トイレを改修



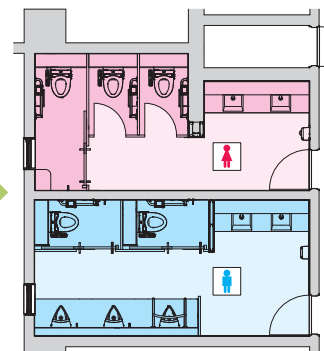
Before 出入口外観とサイン



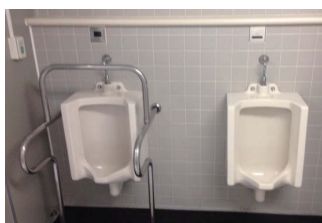
After 出入口外観とサイン



Before 男性用・女性用トイレ 平面図



After 男性用・女性用トイレ 平面図



Before 男性用トイレの小便器



After 男性用トイレの小便器

Voice 事務部の方からの声

こだわりの部分を調整しました。



千葉中央メディカルセンター
事務部 業務管理課 主任
石田貴雅さん

看護部門、リハビリ部門など、それぞれの職種でこだわりのポイントは違いますから、調整には苦心しました。転倒時のことを考えてナースコールの位置を足元近くにするなど、工夫を施しています。

Voice 作業療法士さんからの声

リハビリ室で仮設検証しました。



千葉中央メディカルセンター
リハビリテーション課
作業療法士 係長
柳澤博孝さん

トイレ改修でリハビリの立場からの意見がほしいと声をかけてもらいうれしかったですね。リハビリ室にテープを貼ってレイアウトと同じ環境を作り、お互いに車いすに乗りながら検証を進めました。

Voice 理学療法士さんからの声

開閉ボタンの位置も工夫しました。



千葉中央メディカルセンター
リハビリテーション課
理学療法士 主任
長井里絵さん

車いすで利用する際に、開閉ボタンを押しやすい位置はどこか、実際に動作を検証して配置しました。また、片麻痺の方は車いすをその場で回転させることが難しいので、広い空間を確保しました。